

萌芽会報

第6号

平成元年5月1日発行



機械電気科

萌芽会・編集部

編集発行人 田中喜一

大阪市都島区善源寺町1丁目5の64

都島工業高等学校

機械電気科研究室内

TEL: 06-921-0231代

機械電気科設立

30周年記念特集号

今上挨拶

萌芽会会長 田中 喜一
(昭41年卒)

萌芽会員の皆様方は益々御活躍のこと心よりお喜び申し上げます。

さて第一期の先輩方39名が昭和34年に都島工業高校に入學されて、早いもので今年で満30年になりました。機械電気科設立当初の御苦労は矢張りものであったと思います。以来30年間、現在では時代の要請に応える立派な科として独立いたしました。設立後しばらく実習室が借りものでした。また学年一クラスしかなく、人数に於いても肩身の狭い思いでした。設備の充実と念願の増学級が実施されて、今から考えると夢のような気がいたします。

都工80余年の伝統ある歴史の中で30年は半分にも満たない歳月ですが、この30年が機械電気科のすべてです。日頃仕事が多忙で時間のとれない先輩方、この機会に在学当時を振り返っていただきたいと存じます。本年度の総会・懇親会は30周年記念といたします。この節目を皆様と共に祝いし、これからの飛躍を祈願して開会する事が会長の努めではないかと考えました。歴代科長先生も招待してにぎやかで楽しいものにしたと考えております。多くの会

員の皆様の参加を心よりお願い申し上げます。

最後になりましたが皆様のご健康と益々のご活躍をお祈り申し上げます。ご挨拶といたします。

30周年を記念して、沢山の祝辞を頂戴いたしました。御期待に応える様頑張りたいと思っております。どうもありがとうございました。

機械電気科設立

三十周年を祝す

十三代校長 井口 茂

昭和時代は終りを告げ世は平成となり、何か世界が新しくなった気がいたします。本校機械電気科は、その新しい年に設立三十周年を迎えました。先端技術の加速度的発展の中で、その前途に光明と飛躍を感じます。

当科の設立の意義を読みかえた時に、すでに今日の時代を予言し、現状は極めて自然に電子機械的教育内容に移行してきたという感じがいたします。またことに全国各工高があわだし、時代の要請をうけて、電子機械的方向を指向しているとき、すでに本校には三十年の実績をもつ、機械科の存在があるというところであります。その事は、本校の誇りであり、設立職員に対する敬意でもあります。萌芽会の皆様には、進展する技術社会の先駆的役割を果たし、各界

各層において活躍しております。何卒、科と同等の車の両輪となって、今後共に本校教育にお力添えを頂きたいものと存じております。萌芽会の発展をお祈り申し上げます。

祝 辞

浪速工業会理事長

電13卒 和田正八郎

萌芽会が一九五九年に発せられて三十年、誠におめでとうございます。当時はまだ産業用ロボットもメカトロニクスと云う熟語も生れてなかった時代に、機械電気科を作られたことは誠に先見の明があり、又この科を選択された萌芽会の皆さんは誠に賢明であったと思います。拾年前頃から半導体などエレクトロニクス技術のめざましい進歩によってメカトロ時代に入り、生産、流通、情報、サービス等の分野で需要が拡がり、一昨年から産業界全体の好況は尚一層拍車をかけつゝある事は衆知のことです。

萌芽会の皆さんは今益々研鑽を積まれ、関西の産業界での発展を大いに期待します。

おめでとーさん

浪速工業会評議長

機16卒 石井 一郎

同窓会・萌芽会の創設30周年おめでとうございます。私は機卒ですので、萌芽会については色々「想い出話」が

第5回 萌芽会ゴルフコンペ御案内

- 月 日 平成元年10月18日(水)
- 場 所 茨木高原カンツリークラブ
- 申込締切 平成元年7月末日

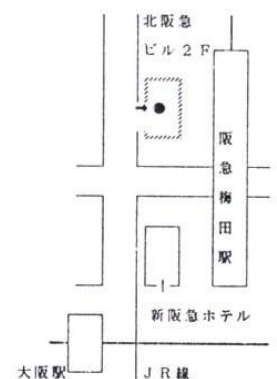
参加御希望の方は各クラス幹事 又は 事業部長 安養寺(昭43卒)まで御連絡ください。詳細決定後直接御通知致します。

総会の席上でも申し込みを受付けます。また、浪速工業会の返信用葉書を利用していただいても構いません。

30周年記念 総会 懇親会御案内

(第12回 萌芽会 総会 懇親会)

- 1) 日時 平成元年7月1日(土)
18:00~総会
18:30~懇親会
- 2) 場所 中国料理 大湖 北阪急ビル店
大阪市北区芝田1-4-8
TEL 06-373-3030
阪急梅田駅、北口より1分
- 3) 会費 ¥7,000.-
(新卒会員 ¥2,000.-)
当日会場で拝受します。
- 4) 準備の都合上6月20日までに出席をご連絡下さい。



尽きません。

(1)会名が当時としてはユニークで素晴らしいと思ひ、加えて皆さんで決められたと云う事で、ヤルナノと感じました。

(2)運動会の鉢巻の色は、現在の萌黄色では無く、機白と電の青との混合色の水色が、2年程は使われていました。

(3)同じ運動会での応援の折は人数不足で、機・電の両科から、助人がかけつける一幕。

(4)部会報を出すのに、その資金が無くて(当時は各部会負担)色々、ご相談を受けた事。

(5)機電実習棟が竣工して、その祝賀会を講堂で、一緒に挙行した事、及びご来賓各位を罪の所で一列に並びお送りした事。

現在、多くの方々は会社・地域社会・ご家庭で随分自立派。

何卒、萌芽会や後輩諸君に、良き先輩でありますよう。とにかくにも、おめでとうさんと。

祝 辞

衆議院議員 近江巨記夫

都島工業高校機械電気科設立30周年記念、心よりお喜び申し上げます。

近年、経済大国日本の発展を遂げた原動力は技術革新の進歩、就く工業技術の最先端である機械電気技術の向上にあったと言つて過言ではありません。

機械電気、電子工業技術の脚光は、コンピュータ、超電導等の技術開発に加え、その応用

は、21世紀の「脳都市」、「脳電ビル」、「脳脳ライフ生活」と呼ばれる情報社会に移りつつあります。

今後益々広がる舞台で、皆様方の一層の御活躍と御健勝をお祈り申し上げ、御挨拶と致します。(昭29年建築卒)

機械電気科設立30周年を迎えて

初代科長 坂中 儀

機械電気科設立三十周年を迎えるに当り心からお祝い申し上げます。

昭和三十四年当時は、自動制御装置の研究の盛んな時代でした。

機械出身者は電気という時代に代り、電気に強い機械技術者に代り、電気に強い機械技術者の養成を目ざして、設立されたと思ひます。

従つて高等学校で機械を、大学で電気を修められた先生をさがして来ていたことを覚えております。

今日果してこの設立の趣旨が生かされていくでしょうか。今にして思へば、コンピュータを駆使して、世界工業界をリードしている日本工業界の真分時代であったのでしよう。

科名についての裏話

二代科長 林 雷次郎

機械電気科萌芽会設立三十周年

年、ほんとうにおめでとう。

さて科名には、当時色々の候補名があり、どれもよい名に違いないのですが、約四十名の第一回生が熟慮して選び、是非この名にしたいとの要望で、関係の先生方へ毎日のように賛同を求めらうめのお願ひに走り回っていたのを覚えております。

上からの押しつけでなく、生徒達による、生徒達のための科名であった事を思い出します。

なお、正式には「機械・電気科」と当時の学校長村上正巳先生が、科名を市教委へ届け出られたことも今は思い出の一つです。

機械電気科設立30周年を迎えて

六代科長 森本 龍雄

年月を数へれば長い道程であるが、省みれば泡末の如く、光陰矢の如し、とは正にこの事かと感じられます。

機械電気科設立三十周年を迎えて、記念総会を催される運びとなつた事は、誠に喜ばしい限りで心からお祝い申し上げます。

当初は施設、設備は共用にて機械科並びに、電気科に随分と御世話になり、その後時代の交遷と幾多の人々の努力と相まって、念願の施設、設備の完成、二学級制の移行へと、無から有へと、その実の時となつて参りませう。

を密にして、益々の機械電気科の発展を切に念願して、御祝いの言葉といたします。

機械電気科設立のころ

初代会長 千葉 晴夫 (昭和37年卒)

東海道新幹線の建設など日本社会が興隆期を迎えていた昭和三十四年に機械電気科の一期生として四〇名が入学した。それまで三クラス制の機械科を一クラス減して新設したこともあって、教室も実習場も全て機械科に仮住まいの形であったが、なんとしても自主独立の精神を養う必要があるとの気運が高まり科章と応援旗だけでも自分達の手で作りゆつた事になった。

設立の趣旨を最もよく表わした記号MEを決定すると共に見栄えのする立派な旗を出来るだけ安く引き受けてくれる業者を探して連日歩きまわつた事がなつかしく思い出される。

機械科の弟のころ

二代会長 馬淵 敏治 (昭和38年卒)

在学中は機械科の校舎に仮住いで、実験時には機械科や電気科の実験室に移動し、肝心の「自動制御」の実験の時では「金ツチやノコギリ」を手にして実験室づくりに精を出していた。何事においても機械科の弟扱いであった。今では立派な校舎に入り、設備も充実した

ものになつてゐる。更に2クラスになつても「知・体」とも優れた生徒が集まり、体育祭では優勝争いを繰り広げるとか、想像だに及ばなかつたことである。

又、萌芽会の活動も、立派な総会、会報、ゴルフ大会と実績を積み重ね着実に成長をしていく。一期生の千葉先輩が浪速工業会、他部会の諸先輩に相談され、会の礎を築かれた時の御苦労を想うに、夢のようである。

機械科卒業生の活躍を祈るものである。

三十周年に思う事

三代会長 川口 寿通 (昭和40年卒)

機械電気という新しき分野の科にあこがれて都工に入学した。今思い起こせば、色々特色があつたように思うが「金属材料」の教科書は京大で使っている

ものと同じと言われ、レベルの高い授業だな」とひとり感心していたのを覚えてゐる。

扱って、小生は電気メーカーに勤務しているが機械と電気を習つたおかげで現在に至るまでずいぶん幅広くその基礎知識が役にたった。目まぐるしく動く産業界であるが、我が機械電気科は常に時代を先取りしたすばらしい科である事を誇りにしていきたいと思つた。

卒業後クラス会らしきものを催していないのが非常に残念。会社でも家庭でも多忙な年代だけにやむを得ない面もあるが会社人間関係以外のつきあひにも参加できる心の余裕がほしいものだ。

三〇周年おめでとう。現萌芽会々々長 役員の方々のご苦勞に敬意を表します。

機械電気科

卒業生の就職先

機械電気科の卒業生の就職先はどこの多いか気になる所ですが89年度会員名簿をもとに統計を取ってみました。我が社にもこんなに入つてゐたのかと思われる方も多しはずです。

第28期(平成元年3月)迄の卒業生総数は一、二四四名で、五一〇社の企業に就職されています。

(官公庁、民間企業、自営含む) 就職されている方 一、〇三名

●自営の方 五三名

●進学中の方 八名

●就職先不明の方 一四二名

●主婦 一名

●死亡届の出ている方 七名

就職先のトップはNTTで24名、続いて三菱電機、松下電器

入社人数	企業数	企 業 名
24名	1社	NTT
21名	2社	三菱電機、松下電器産業
18名	1社	油圧機器販売
17名	1社	シャープ
15名	2社	山武エンジニアリング、近畿日本鉄道
12名	1社	京阪電気鉄道
11名	2社	富士通、ダイハツ工業
10名	2社	阪急電鉄、大阪市交通局
9名	1社	日本ユニパック(ユニシス)
8名	4社	日本IBM、トヨタ自動車、立石技術、三洋電機
7名	3社	菱電エンジニア、日立製作所、大阪機電
6名	9社	ミノルタカメラ、三豊製作所、富士通興業、富士ゼロックス、日立電子サービス、中北製作所、沖電気工業、大阪ガス、相生電気
5名	16社	三菱自動車、非破壊検査、播州電機、日本NCR、日本システムデベロップメント、南海電気鉄道、都築電気工業、椿本カステムチェーン、自衛隊、JR西日本、シャープシステムサービス、坂本金型工作所、国家公務員、神戸製鋼所、近畿車両、大阪紙工
4名	14社	リコー電子技術、横河電機、三田工業、日本ビジネスコンサルタント、日精コンピュータ、トヨタカローラ浪速、東芝昇降機サービス、東芝、大気社、全日空、小林電子産業、大阪日産自動車、大阪サテライトー金属工業協同組合、朝日新聞社
(431名)	(59社)	

科 長 挨拶

機械電気科長
成 田 義 之

会員の皆様におかれましては、それぞれの職場でご活躍のことと存じます。

このたびは前科長橋本先生が四月の異動により市立東淀工業高校の教頭に御栄転のため、私が機械電気科長の重責を引き継ぐことになりました。微力ではありますが、前科長の意志を引き継ぎ、萌芽会発展のために先生方と協力し頑張るつもりと存じます。この間、時代の先端をいく学科として、各方面から注目され、また関係者の温かい指導を得て、発展してまいりました。

設置された昭和30年代は、日本の戦後復興から高度工業化へと移行する時代であり、工業技術者、特に自動制御技術者が求められておりました。当時、機械科長の坂中先生を中心に、電気には強い機械技術者の養成の名のもと自動制御もとり入れたカリキュラムを組んで機械電気科設置の準備がなされ、昭和34年度から第一期生が入学致しました。

設備は皆無からスタート致しましたので、機械科と電気科の

施設々備を利用しての授業であり生徒も先生も大変な時代でありました。

学科名としても種々の候補の中から結局、わかり易い機械電気科となり現在に至っております。機械電気科の生徒はいるものの職員組織としては科長は機械科と兼務で先生方は機械科のままの状態が続きました。職員は昭和38年に機械電気科として独立し、初代専任科長に林先生が就任されております。

その後、徐々にではありますが施設々備も整備され、昭和49年には実習棟の完成、昭和58年からは2クラス募集し発展してきました。

30年前に現在を予想だにできなかったものの、その方向は時代の先取りでありました。

近年全国的に電子機械科が設置されておりますが、この学科が機械電気科を参考に設置されており、非常に類似しております。

機械電気科が更に発展・飛躍のため諸先生方のためにも努力により、指導内容の検討・工夫を行い日本の先進校として責任を果すべく研究を進めております。

卒業生の皆様のご協力、ご援助を切にお願い致します。

機械電気科職員紹介

機械電気科六クラス、二四一



名に対し、次の先生方が指導にあたっておられます。

尚、四月の異動により、機械電気科で昭和34年から都合18年間御指導いただきました橋本三千穂先生は市立東淀工業高校教頭に、46年より18年間御指導いただきました寺口正信先生と6年間お世話になりました竹野泰幸先生はそれぞれ市立此花工業高校へご転勤になりました。

諸先生方の長年の御指導に感謝を申し上げ、今後のご活躍をお祈り致します。後任として、市立東淀工業高校より松本信一先生、新任の松山克則先生、井上直人先生をお迎えしましたのでよろしくお願い致します。

写真上段右から
中野靖弘先生
巽「春先生(3b担任)

細「先生(2a担任)

鷲見 隆先生(2b担任)
田中修二先生(3a担任)
若林亮行先生(1a担任)
藤原清隆先生
下段右から

高橋昭次先生
松本信一先生
村尾勝継先生
松山克則先生
成田義之先生(科長)
井上直人先生
馬越盛治先生(1b担任)

前機械電気科長
橋本 三千穂

萌芽会々員の皆様には職務にご精励のことと存じます。私、四月の異動により大阪市立東淀工業高等学校へ転任いたしました。

昭和34年からの5年間と、昭和51年からの13年間の在任中、特に昭和60年からの4年間、科長として、会員諸氏の絶大なご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

機械電気科は設置後30年を経ました。いよいよ充実期を迎えております。

成田新科長のもと、ますます発展するものと信じますので、会員の皆様のご支援をお願い致します。

末筆ではございますが、田中会長のもと萌芽会の更なる発展をお祈りし、お礼の挨拶と致します。

萌 芽 会 会 則

第 1 条 (名 称)
本会は萌芽会(浪速工業会機械電気科部会)と称する。

第 2 条 (目 的)
本会は会員の協力によって親睦と知識の向上をはかり、産業界の発展に寄与することを目的とする。

第 3 条 (事 務 局)
本会は事務局を大阪市立都島工業高等学校機械電気科研究室におく。

第 4 条 (会 員)
本会の会員は次の通りとする。
1. 正 会 員 機械電気科卒業生
2. 在校生会員 機械電気科在校生
3. 特別会員 機械電気科職員および元職員
4. 賛 助 会 員 本会の事業に賛助し、役員会で認められた者

第 5 条 (構 成)
本会の構成は卒業生部会と在校生部会とに分ける。
在校生部会については別に定める。

第 6 条 (役 員)
本会は次の役員をおく。
1. 会 長 1 名
2. 副 会 長 1 名
3. 会計監査 1 名
4. 総務、会計、事業、編集 若干名
5. 顧 問 若干名
6. クラス幹事 各卒業期クラス毎に 1 名

第 7 条 (選出方法)
役員は次の通りとする。
1. 会長、副会長、会計監査は役員会において推薦し総会で決定する。
2. 総務、会計、事業、編集の各担当は役員会において決定する。
3. 顧問は役員会の推薦により会長が委嘱する。
4. クラス幹事は正会員中より各卒業期クラス毎に選出する。

第 8 条 (任 務)
役員は次の通りとする。
1. 会長は本会を代表し会務を統括する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長支障あるときはこれを代行する。

3. 会計監査は本会費の収入、支出一切に関する監査を行う。
4. 総務、会計、事業、編集担当は役員会及び各種の行事、会議に出席しそれぞれの会務を処理する。
5. クラス幹事は役員会及び各種の行事、会議に出席し会務の処理とクラスの取りまとめを行う。

第 9 条 (任 期)
役員は任期は2年とする。ただし再任は妨げない。

第 10 条 (補欠役員)
役員に欠員を生じたときは補欠選出をする。
補欠役員の任期は前任者の残任期間とする。

第 11 条 (総 会)
卒業生部会は原則として毎年1回開催する。

第 12 条 (総会の議事)
総会は次の議事を行い議決する。
1. 会務報告および会計報告
2. 会則の改定
3. 役員を選出
4. その他会長が必要と認めた事項

第 13 条 (役員会)
役員会は第6条の役員によって構成し、必要に応じて会長が召集する。

第 14 条 (議 決 権)
会議の議決は当日出席者の過半数による。

第 15 条 (経 費)
本会の経費は浪速工業会還元金、寄付金などを之に当てる。

第 16 条 (会計年度)
本会の会計年度は4月1日より始まり、翌年3月31日までとする。

(付則)
1. 本会則に定められていない事項は役員会にはかり、会長が処理する。
2. 在校生部会は別に定める会則に基づいて運営する。

昭和50年 5 月 25 日 制 定
昭和53年 6 月 24 日 一部改訂
昭和61年 6 月 28 日 一部改定

芽 会 年 表

機械電気科卒業生数

年度	会 長	副 会 長	理 事	参 事	会 則	総 会	萌 芽 会 報	主 な 事 業	卒 業 生 部 会 会 員 数
37								千葉晴夫氏 (S37) 中心となり 萌芽会組織作り着手	第1期生卒業 (39名)
48									
49	千葉晴夫 ³⁷		山口隆男 ³⁷						第13期生卒業 1~13期生 合計 511名
50	"		"		会則制定	第1回 50.5.25 (都工職員会議室)		千葉晴夫氏 (S37) 会則に基き第1回総会開催	
51	"	馬淵敏治 ³⁸	福山 勝 ³⁷	馬淵敏治 ³⁸					
52	"	"	"	"		第2回 52.5.28 (同上)			
53	馬淵敏治 ³⁸	松尾正孝 ³⁹	齊藤 勝 ³⁸	千葉晴夫 ³⁷	会則 一部改訂	第3回 53.6.24 (同上)			
54	"	"	"	"		第4回 54.7.14 (都工機電教室)			
55	川口寿通 ⁴⁰	松下 靖 ⁴⁷	松尾正孝 ³⁹	"		第5回 55.8.9 (同上)			
56	"	"	"	"				川口寿通氏 (S40) 萌芽会報第1号発行	
57	"	田中喜一 ⁴¹	松下 靖 ⁴⁷	"		第6回 57.6.26 (波速工業会館)	第1号57.5.1 (1,000部)		
58	"	"	"	"					増学級 (2クラス) 着手
59	田中喜一 ⁴¹	中島 聖 ⁴⁹	大久保和行 ⁴¹	"		第7回 59.3.28 (同上)			
60	"	"	"	"		第8回 60.6.29 (同上)	第2号60.5.1 (1,000部)	第1回ゴルフコンペ 60.11.27 卒業記念品 (電卓) 61.2.27	
61	"	安養寺哲夫 ⁴³	中島 聖 ⁴⁹	"	会則 一部改訂	第9回 61.6.28 (梅新 大湖)	第3号61.5.1 (1,400部)	第2回ゴルフコンペ 61.10.22 卒業記念品(精密ドライバー) 62.2.27	第25期生2クラス卒業(79名) 1~25期生 合計 1,010名
62	"	"	"	"		第10回 62.6.27 (同上)	第4号62.5.1 (1,200部)	卒業記念品(ドライバーセット) 63.2.27	
63	"	"	岩地 聖 ⁴¹	千葉晴夫 ³⁷ 馬淵敏治 ³⁸ 川口寿通 ⁴⁰		第11回 63.6.25 (梅田 大湖)	第5号63.5.1 (1,400部)	第4回ゴルフコンペ 63.10.26 卒業記念品(ドライバー) 1.2.25	
1	"	"	"	"		第12回 1.7.1 (梅田大湖予定)	第6号1.5.1 (1,400部)	機械電気科開設30周年	第28期生2クラス卒業(81名) 1~28期生 合計 1,244名

期	卒業年月	卒業生数	累 計	担 任
1	37.3	39名		林
2	38.3	39名	78名	森 本
3	39.3	36名	114名	稲 田
4	40.3	37名	151名	森 本 (1年林)
5	41.3	39名	190名	落 合
6	42.3	41名	231名	稲 田
7	43.3	44名	275名	落 合 (2年林)
8	44.3	39名	314名	森 本
9	45.3	41名	355名	今 橋
10	46.3	39名	394名	今 橋
11	47.3	38名	432名	落 合
12	48.3	40名	472名	森 本
13	49.3	39名	511名	今 橋
14	50.3	40名	551名	寺 口
15	51.3	39名	590名	森 本
16	52.3	34名	624名	落 合
17	53.3	38名	662名	藤 城
18	54.3	40名	702名	落 合
19	55.3	36名	738名	橋 本
20	56.3	40名	778名	落 合
21	57.3	39名	817名	藤 城
22	58.3	37名	854名	村 田
23	59.3	39名	893名	寺 口
24	60.3	38名	931名	橋 本
25	61.3a	41名		村 尾
	b	38名	1,010名	熊 代
26	62.3a	40名		住 川
	b	39名	1,089名	馬 越
27	63.3a	36名		菅 沼
	b	38名	1,163名	中 野
28	1.3a	40名		寺 口
	b	41名	1,244名	成 田

平成元年度 萌芽会役員

萌芽会 昭和63年度 会計報告

平成 1. 3. 31

- (役職) (氏 名) (卒年)
- 会 長 田中 喜一 S41
- 副 会 長 安養寺哲夫 S43
- 会計監査 牧野 正一 S41
- 事業部長 安養寺哲夫 S43
- 事業部 高橋 良司 S43
- 総 務 部 長 中島 聖 S49
- 編集部長 大久保和行 S41
- 編 集 部 田中 喜一 S41
- 幹 事 平田 克彦 S37
- 〃 馬淵 敏治 S38
- 〃 小原 正利 S39
- 〃 白露 義照 S40
- 〃 岩地 馨 S41
- 〃 山本 隆男 S42
- 〃 安養寺哲夫 S43
- 〃 今井 進 S44
- 〃 島仲 聡 S45
- 〃 山崎 龍行 S46
- 〃 玉城 洋一 S47
- 〃 藤咲 猛 S48
- 〃 中島 聖 S49
- 〃 小野 寛 S50
- 〃 柏原 正一 S51
- 〃 畑田 敏昭 S52
- 〃 是松 繁 S53
- 〃 酒井 宏 S54
- 〃 森本 雅幸 S55
- 〃 金本 春尚 S56
- 〃 中田 淳二 S57
- 〃 竹野 泰幸 S58
- 〃 浦野 高清 S59
- 〃 瀬尾 孝志 S60
- 〃 稲村 信男 S61a
- 〃 岩本 尋志 S61b
- 〃 齊藤 陽一 S62a
- 〃 谷口 哲也 S62b
- 〃 中川 浩一 S63a
- 〃 秋吉 孝一 S63b
- 〃 尾崎 充紀 H1a
- 〃 豊崎 満弘 H1b

収 入 の 部		支 出 の 部	
項 目	金 額	項 目	金 額
前年度繰越金	115,249 ^円	会報第5号発行費	39,400 ^円
部会還付金	75,000	慶 弔 費	35,000
第11回総会会費	305,000	役員会会議費	9,370
63年度在校生会員会費	24,000	通 信 費	10,500
広 告 還 付 金	30,677	第11回総会費用	296,320
寄 付 金	1,600	卒業記念品代	33,210
		次年度繰越金	127,726
合 計	551,526	合 計	551,526

萌芽会 昭和63年度 会務報告

行 事	実施日	場 所	内 容 等
萌芽会役員会開催(第1回)	S 63. 5. 14(土)	浪速工業会館	総会準備
〃 (第2回)	S 63. 9. 3(土)	〃	ゴルフコンペ名簿
〃 (第3回)	H 1. 2. 18(土)	〃	事業、予算案
〃 (第4回)	H 1. 3. 25(土)	〃	総会、会報
萌芽会報第5号発行	S 63. 5. 1	1,400部	
機械電気科進路懇談会開催	S 63. 6. 25(土)	化学計測実習室	OB 9名
萌芽会第11回総会懇親会開催	S 63. 6. 25(土)	梅田 大湖	50名
萌芽会第4回ゴルフコンペ開催	S 63. 10. 26(水)	茨木高原CC	9名
卒業記念品贈呈	H 1. 2. 25(土)	卒業生81名	ドライパー

平成元年度 浪速工業会役員

- (役職) (氏 名) (卒年)
- 理 事 岩地 馨 S41
- 参 事 千葉 晴夫 S37
- 〃 馬淵 敏治 S38
- 〃 川口 寿通 S40
- 評 議 員 牧野 正一 S41
- 〃 藤咲 猛 S48
- 〃 柏原 正一 S51
- 〃 畑田 敏昭 S52
- 〃 竹野 泰幸 S58
- 〃 秋吉 孝一 S63b

【編集後記】

浪速工業会費の払込みに御協力ください。
昭和63年度は80名の会員の皆様により払込みいただきありがとうございます。
萌芽会へも還付されます。

機械は機械科の弟というお話しがありました。機械科から見てこの弟は、かわいのかたよりののかた、ふと考えました。どうせならかわいい弟でありたい。なにはともあれ、この歳の離れた弟も30才になりました。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆

今年の総会は記念総会にしました。より多くの参加をぜひお願い致します。7月1日は今から予定に入れておいて下さい。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆

萌芽会報も第6号が発行できました。予算はないが、無理をして6頁の記念号に致しました。お読みになって、御意見、御感想がありましたらぜひ共寄せ下さい。皆様の投稿が紙面を充実させます。

〒556 大阪市都島区善源寺町一丁目5番30号
浪速工業会「萌芽会」宛
橋本三穂先生御朱転おめでとございます。御活躍を心よりお祈り申し上げます。

(役員一同)